

福祉だより信州

昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第731号
平成28年4月25日発行
(毎月25日発行)



CONTENTS	
今月のフクシちゃん	2
平成28年度事業計画	4
誰もが安心して暮らせる地域づくりのために	6
信州つながり探検隊	7
まいさぼレター	8
わたしたちのめざす地域貢献	10
福祉保険サービス広告	11
Art Meeting	12
今月の逸品	12
情報掲示板	12



No.
731
2016 5月号

福祉とは「ふだんのくらしのしあわせ」 自分の幸せが周囲への優しさにつながります

八ヶ岳を間近に望む富士見町社協
ここで地域の人から「さきちゃん」と呼ばれ親しまれているのが、明るい笑顔が印象的な篠原早紀さんです。子どもの頃、年の離れた弟が生まれたことで保育士をめざしていた篠原さんですが、

高校卒業後に進学した福祉大学校の実習で介護施設を訪れ、高齢者の優しさや大らかさに触れたことで介護の道を選択しました。そして、新たな介護事業の展開を進めて地域福祉にも注力し始めていた同社協に入職。「介護だけでなく地域のことも取り組め、広い目で見ると子どものことにも関われる」と思ったことが入職の決め手でした。

入職後は介護事業所に配属され、現在は地域福祉係に異動してボランティア団体や地区社協の支援、広報誌の制作など幅広い事業に携わっています。特に平成27年度から開始した「富士見町地域元気リーダー養成講座」は、篠原さんが中心となって実施しました。これは総合事業における地域づくりの一環として、介護予防生活支援に取り組みリーダーの養成を図るもの。前例のない企画だったために担当を任せられた当初は悩んだそうですが、上司に相談しながら実践的な9つの講座を組み立てたことで、受講後に自らサロンを立ち上げた参加者もいて、次の活動へと実を結んでくれたことが嬉しそうです。また「受講してよかった」「次はこれをやりたい」といった

感想や意見ももらえ、今は「まずはやってみることが大切」と実感しているのだとか。

そんな篠原さんですが、異動したばかりの頃は地域福祉の仕事に対し大きな葛藤もあったそうです。

「最初の頃は地域福祉事業の幅広さとまどい、人前の説明では極度に緊張し地域に積極的に出て行けず、自分には地域福祉は向いていないと激しく落ち込みました。でも、福祉教育などにも関わるうちに福祉とは『普段の暮らしの幸せ』であるからこそ、まずは自分を大切にしないと、他人のことをより大切にはできないと気付いたんです。そこで自分の体をいたわり、おいしい食事や楽しい旅行をして幸せを感じ、その幸せの波紋を広げていくようにと考えられるようになりました」

明るく笑顔が絶えない職場の仲間や頼れる上司も、今は大きな支えとなっています。そんな篠原さんの今後の目標は、もっと知識をもって行動する力を付けるためにも社会福祉士の資格を取得して自信を付け、アサーティブ（相手も尊重した上で対等に自分の意見を相手に伝えること）な対応ができるようになることと、もっと地域に出て人と顔を合わせ、地域の人の居場所づくりに携わっていくこと。周囲から愛される篠原さんなら、きっと今まで深く悩んだ経験を糧に、この目標を叶えていくことでしょう。



職場内では一番の年下として可愛がられつつ、真摯に地域福祉に取り組む篠原さん。その働きぶりを上司の進藤さんは「何事も一生懸命で言われればすぐに行動し、最近では自分で考えて動く力も付いてきた」と太鼓判を押します。そんな篠原さんが仕事で心がけているのは、常に笑顔を大切に、相手の表情を見ながら気軽に話ができる雰囲気をつくること。こうして相談に耳を傾け、相手の思いに寄り添うように努めています。



利用者さんから信頼される 訪問介護をめざして



利用者さんの自宅に何う訪問介護に携わっています。心がけているのは、年上の利用者さんへの言葉遣いに配慮し、困りごとにも気を配ることでよりよい生活が送れるようにすること。そうした中で「ありがとう」と言われるとやはりうれしく、仕事の励みになっています。
小林めぐみさん
(訪問介護副主任)

今以上の地域福祉を住民と共に つくっていくことが社協の使命



私たちは部署を超えて地域に向き、行政とも連携を図って地域福祉に取り組んでいます。だからこそ一生懸命携わるほど地域が暮らしやすくなり、住民の笑顔が増えるやりがいがあります。そして、住民と共に課題を乗り越え形にしていけるのもこの仕事ならではの醍醐味です。
進藤竜一さん
(地域福祉係係長)

いろいろな経験から自分を知り、 自分の幸せも考えた働き方

仕事は気持ち次第で良くも悪くもなります。そこで自分がどんな時に幸せを感じるかを知っておくと、落ち込むことがあっても気分を取り戻せます。だからこそ、これから将来の仕事を決める人はたくさんの経験を通していろんな自分と出会ってほしいです。そして、人とのふれあいから元気をもらえるのが社協の仕事の魅力です。



原村出身。12歳の頃に弟が生まれたことで保育士をめざすようになり、高校卒業後に諏訪市の福祉大学校に進学。しかし、もともと祖父母が好きだったことや介護施設での実習の経験から介護福祉の道をめざすようになり、卒業後の平成23年に富士見町社協に入職。3年間、介護業務に従事した後、平成27年より現職。

「つながり支え合う地域づくり」を目指して 四つの優先課題に果敢に 取り組みます！

平成28年度長野県社会福祉協議会事業計画から

三月三十一日、国会で、社会福祉法の改正案が可決されました。平成二十八年度は、福祉・介護を巡る様々な制度改革が大きな節目を迎えることとなります。これらの制度改革を地域福祉推進の契機として活かしていくため、本会で

- 4つの優先課題**
- ① 社会福祉法人制度改革への対応
 - ② 災害時における社会福祉協議会の連携強化と緊急時の体制整備
 - ③ 地域を基盤とする総合相談・生活支援の体制づくり
 - ④ 福祉・介護サービスを担う人材育成とキャリア形成の支援

は、第4次基本構想に基づく4つの優先課題を中心とした積極的な事業展開を目指します。
また、市町村社会福祉協議会や社会福祉法人関係者とともに、法人の組織改革や情報公開を推進します。



事務局長 宮本寿郎、会長 腰原愛正、常務理事 青柳郁生

- 支援ネットワークの構築に取り組みます。
- 〔1〕安心安全な地域づくり
 - 住民の支え合い活動の推進
 - 生活支援サービスの推進
 - 〔2〕地域福祉の基盤づくり、人づくり
 - 市町村社協への支援、研修
 - 地域福祉コーディネーターの養成
 - 〔3〕関係団体との連携、協働
 - 民生委員・児童委員との連携等
 - 〔4〕ボランティア・市民活動の振興
 - 信州発ボランティア・地域活動フォーラム等の開催
 - ボランティアコーディネーター養成研修
 - 〔5〕災害救援活動及び防災・減災事業
 - 災害福祉広域支援ネットワークの構築
 - 〔6〕福祉教育の推進
 - 福祉教育推進フォーラム、研究会の開催
 - 小・中学生ボランティア新聞「やまびこだより」の発行

3 相談事業部

信州パーソナル・サポート事業の着実な実施とともに、生活福祉資金貸付事



相談事業部「課題を共有！相談TELお待ちしております！」

- 業や日常生活自立支援事業等との連携を図りながら、地域を基盤とする総合相談・生活支援の体制づくりを推進します。
- 〔1〕総合相談機能の充実
 - 相談事業基礎研修
 - ブロック毎のケース検討会の実施支援
 - 〔2〕日常生活自立支援事業
 - 基幹的社協との連携、モデル実施町村社協の拡大
 - 担当者研修の効果的な実施
 - 〔3〕信州パーソナル・サポート事業の着実な実施
 - 県内9カ所の「まいさぼ」の運営、まいさぼ出張相談所との連携
 - 家計相談支援事業の充実
 - 支援人材育成研修事業



総務企画部「皆様のお役に立てる県社協を目指し頑張ります！」

1 総務企画部

- 制度改正に対応して、本会の組織財務の改革を進めるとともに、市町村社会福祉協議会、社会福祉法人への相談支援や、地域貢献事業の推進、広報活動の強化に取り組みます。
- 〔1〕総合企画・調整
 - 法人運営支援窓口の充実
 - 制度改正対応セミナー等の開催
 - 市町村社協の運営支援
 - 本会独自の公益事業の企画
 - 〔2〕総務・庶務・広報
 - 本会の組織、財務の改革
 - 事務処理の効率化の推進
 - 情報公開、情報セキュリティ強化

4 福祉人材部

- 求人・求職ニーズを的確に捉えながら、関係機関・団体と連携した多面的な取り組みを進めるとともに、福祉職員生涯研修、介護支援専門員研修及び介護職員実務者研修等を体系的・効果的に行い、人材の定着・育成を図ります。
- 〔1〕福祉人材の確保定着支援
 - 地域生活支援体制モデル事業
 - 生活福祉資金貸付事業
 - 市町村社協との連携による積極的な相談支援、貸付
 - 償還指導等による債権管理
 - 貸付相談員配置事業



福祉人材部「皆様とともに福祉人材の確保・育成に取り組みます。」



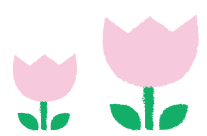
地域福祉部「地域の課題に全力投球！チーム一丸で頑張ります。」

2 地域福祉部

- 〔3〕退職共済事業の適切な運営
 - 「退職手当積立基金事業」年金共済事業」の適切な運営
 - 福利厚生センター事業の充実
- 「地域福祉研究会報告提言」(平成27年12月発行)を踏まえ、あらゆる福祉・生活課題を支える地域づくりのため、地域福祉コーディネーター等の地域福祉推進の人づくりを進めるとともに、つながりや支え合いの再構築を目指し、ボランティア・住民参加による地域づくり、ネットワークづくりを推進します。また、災害時を想定した広域での福祉

5 長野県福祉サービス運営適正化委員会

- 〔2〕福祉人材の育成、研修
 - 事業所のキャリアパス構築支援
 - 福祉職員生涯研修
 - 介護支援専門員実務研修受講試験の実施
 - 介護支援専門員研修
 - 介護職員実務者研修(全社協から受託)
 - 〔3〕介護サービス情報公表センター事業
- 第三者的機関として福祉サービスに対する苦情の相談、解決に取り組みます。



信州つばがり探検隊

住民主体の福祉活動地域づくりレポート

「自分たちで道をつくる？」

泰阜村に自分たちで道づくりをしているグループがある？そんな情報を耳にした、自称新人隊員「すの」が調査に乗り出しました。住民支え合いの原点ともいえるその活動内容とは・・・？

会長の林さんにお話を伺うことができました。設立は平成24年、「世代を超えた結い」の考えに基づき、稲伏戸地区住民の安心安全を確保し、住みやすい集落の継続を目指すことを目的に活動を開始しました。

会のモットーは、「できる時に できる事を できる人が できる様に できるだけ」。年1回の総会の時に立てた年間計画に基づいて、春夏秋冬季節に合った活動を行っています。

春の活動は水田土手づくりと農道づくりです。活動の様子を見させていただくと、ショベルカーやミキサー車など重機が入った本格的な活動です。運転するのは土木作業の経験がある林さん。林さんが重機での基礎を終えた後、メンバーが手作業で土手や道を作っていきます。「自分たちで作ると、形として残るから誇りになるんだ」と林さんは語ります。メンバーは30代から70代まで全員男性で19人ですが、その日の活動に出られる人が無理のない範囲で行っています。また、夏には空家・休耕地の除草作業、秋には椎茸原木の切り出し、冬には正月飾りの作成等を行っています。

会の活動のエネルギーとなっているのが、活動終了後に必ず行っている慰労会（飲み会）です。今日の反省や次回への要望など、楽しい雰囲気の中で次の行動につなげていきます。「自分たちの住む地域は自分たちで」そう語る林さんに、住民支え合いの原点があると感じました。



団体名/稲伏戸業師の会(下伊那郡泰阜村稲伏戸地区)
問合せ先/会長 林 銀一氏 (TEL 0260-26-2435)



昭和25年ごろの食事風景。一汁一菜には金(かね)の茶碗と金(かね)の箸、ゴザに坐して空腹を満たしていた。社会福祉法人萱垣会 〒395-0805 飯田市鼎一色551番地 TEL 0265-22-1368 FAX 0265-22-1006

福祉団体リレーエッセイ 誰もが安心して暮らせる 地域づくりのための

長野県社会福祉法人経営者協議会

社会福祉法人の歴史を振り返る 会員団体「萱垣会」の歩みから

全ての生活物資が枯渇していた終戦後の昭和24年、社会福祉法人萱垣会は小さなお寺の庫裏の十畳間から産声をあげた。今日のように福祉や介護という言葉がまだ生まれていない時代、創設者故萱垣幸道師は法人の歩を次のように語っていた。

「年の暮れに一人の老女が寺の門をくぐり一夜の宿を乞うてきた。背負う荷物の中には戦死した息子の位牌と僅かばかりの衣類をもつての流浪の旅。自身も南方で多くの戦友を失い、自分だけが帰還したこと深い悔いの中で、老女を救うことで重荷も軽くなるかもしれない」との思いが原初であった。生活保護法下での養老事業は、最低基準もなく十畳間に五人が生活を送り、衣食住を維持することだけだった。

お年寄りが亡くなれば、大八車に薪も一緒に乗せて火葬場に向かい、帰りに配給のミルクと食糧を確保することも職員の仕事であったという。

次第に利用者の中には視覚障害者や要介護者が多くなり、県下で初の特別養護老人ホームを昭和43年に、視覚障害者専用の養護盲老人ホームを昭和47年に創設した。

全ての因縁は73年前、南方の餓島近海で意識不明のまま漂流中のところを救ってくれた友軍の絆、そして67年前に一夜を乞うてきた老女との出会いが今日の萱垣会を生み落して下さったのだろう。誰も語りはしないが、二人の出会いには大きな理由があったと思われる。

戦後から71年、日本は豊かさで引き換えに少子高齢化の時を迎えることとなった。この間歩んできた福祉の制度は大きく変貌しているが、日本の根底に流れる慈しみの心は宗教の教えにある「ワンフォアオール、オールフォアワン」や「忘己利他」、明治の文豪宮沢賢治の作品の中に見られるような温もりのある人権尊重社会を築く先達として社会に貢献し続けること、そして時代を読み解き行政の狭間に光を当てること、これが社会福祉法人の在るべき姿のように思う。(長野県社会福祉法人経営者協議会会員 社会福祉法人萱垣会理事 長 萱垣光英)

団体紹介

長野県社会福祉法人経営者協議会は、県内で社会福祉施設を運営する社会福祉法人を会員とする組織です。平成27年度末時点で78法人が入っています。セミナーの開催等の研修事業、福祉・介護サービス事業所の経営の相談事業、全国社会福祉法人経営者協議会との連携等の活動を行っています。

長野県経営協では、平成27年度から、会員法人が連携して地域貢献活動に取り組むこととし、公的支援の網から漏れてしまっている生活困窮者を対象に「信州あんしんセーフティネット事業」を立ち上げました。資金的な緊急支援ですが、開始1年目にもかかわらず、多くの生活困窮者の方から相談をいただいております。これからのキーワードは「利用者本位のサービス提供」、「地域に根付いた法人運営」です。これらの実現に向けて社会福祉法人経営を支援し、経営力の向上を図ります。



長野県社会福祉法人 経営者協議会

〒380-0928 長野市若里 7-1-7
社会福祉法人長野県社会福祉協議会
福祉人材部 人材グループ
TEL 026-224-3700 FAX 026-227-0137

生きるしあわせ
はたらくよろこび
地域といっしょに



社会福祉法人 花工房福祉会

〒381-2226 長野県長野市川中島町今井 1387 番地 1
TEL:026-283-4187 / FAX:026-283-8703
E-mail:ecorn87@mx1.avis.ne.jp http://www.hanakobo-fukushikai.jp/

まいさぼ

レター

まいさぼレターとは、「生活困窮者自立支援法」に基づき県内23箇所に設置された生活就労支援センター(まいさぼ)の支援員のスキルアップや情報交換を目的として、本会相談事業部が各まいさぼや福祉事務所へ定期的に配信しているものです。今回は、平成28年1月5日に発行された第4号の中から、「関連情報」のコーナーの記事を一部抜粋して紹介します。

社会福祉法人による 社会貢献活動

社協協フードバンク事業の 取り組み (長野市社会事業協会長野市ななせ仲まちな園)

「フードバンク?」「食糧支援?」「長野県に必要?」フードバンクを始めたころの反応でした。平成26年の信州パーソナルサポート・モデル事業の会議で、食糧支援を必要とする人がいるとの話を聞き、社会福祉法人の社会貢献事業として決定、ほぼ1年が経過しました。現状は、各まいさぼから毎日のように支援要請がFAXで入り、郵便局が荷物の集配に来るようになった日々です。

「長野市ななせ仲まちな園」では、まいさぼからのFAXが届くと、職員がセカンドハーベストジャパンから送られてくる食糧を要請内容に合わせて選びます。担当職員が年齢、家族構成などを考慮し個人別一覧表に品物の内容を記入すると、詰め合わせ担当の利用者さんの登場です。まずは表を確認しながら箱詰め、荷崩れしないよう考えながら入れては出しの繰り返しです。最後に、「わあ!食糧が届いた。うれしい!」と温かさを感じていただけるような広告を選んで上に敷きます。「喜んでくれるかな?」ガムテープで封をして作業が終わります。

そんな中、生活困窮者自立支援法が施行され、半年で延べ300件を支援しました。その後も支援要請件数は増加傾向です。91%のまいさぼと連携し、利用者の住所では県内の市町村の44%に上る利用数です。量的な問題ではまいさぼ側からの要請に充分応えきれないかもしれませんが、

何分食糧自体が不足気味なのでご理解をお願いいたします。
さて、当事業所は障がい者の就労支援施設です。FAXに基づいて箱詰め作業を行います。1日に12個の箱詰めが最高記録です。ここまで集中するとなかなかの作業量です。今後はフードドライブなど食糧確保に努めたいと思います。この事業が県民に充分理解され、福祉的観点のみではなく環境面や農林面など様々な形で広がっていくことが望ましいのではと思います。(長野市ななせ仲まちな園 青柳園長)



第5号の内容

- 1 研修報告
 - ・就労支援員養成研修(国研修)
 - ・支援員連絡会議(地域研修)
- 2 まいさぼ情報
 - まいさぼ諏訪市
- 3 関連情報
 - 社協協フードバンク事業の取り組み
- 4 Q&A
 - 社会資源の開拓、関係機関とのネットワークの構築について

まいさぼ情報

「生活困窮者の自立と尊厳の確保」、「支援を通じた地域づくり」を目標に生活困窮者自立支援法が施行されて1年が経過しました。今月からは生活就労支援センター・まいさぼの取り組みを紹介します。

まいさぼ木曾

(長野県木曾生活就労支援センター)
〒399-6101 木曾郡木曾町日義 1600-1
木曾町社会福祉協議会内
TEL 0264-24-0057
FAX 0264-26-2073
E-mail ps-kiso@nsyakyo.or.jp
対象エリア/木曾郡(木曾町、上松町、南木曾町、木祖村、王滝村、大桑村)
人口/28,947人(H28.3/1現在※木曾郡内町村住民基本台帳人口)

関係機関とのつながりづくり

まいさぼ木曾は、北は木祖村から南は南木曾町までを対象とし、各社協担当者との連携も広がっています。野田センター長は、「支援者がたくさんいた方が支援の質が高まり、本人も自立に向けた意欲が高まる」と話します。また、「先日、木曾保健福祉事務所が主催した自殺予防の研修会で一緒にあった病院のケースワーカーの方から、「まいさぼを知らなかった。実は患者さんの中には支払



いを滞納してしまう方がたくさんいる」と話があり、新たなつながりができた」とのこと。まいさぼの存在や役割を既存の福祉・医療・就労等の支援機関に認知してもらい、関係者同士が連携できるようにしていくことが必要です。

また、ハローワークにおいても困窮者支援の意識や取り組みが高まっており、統括職業指導官や就職支援ナビゲーターの方などとの連携が進んでおり、「相談者のアセスメントを行う」と、すぐに関係者が集まれるチームができていく」と野田センター長は話します。

新たな社会資源との連携を 目指して

生活困窮者に対する就労支援を進めるうえで、地域の雇用環境を把



木曾町商工会役員会にて生活困窮者自立支援制度及びまいさぼ木曾の取り組みの説明を行いました。

握しつつ、企業にアプローチし、一般就労、就労訓練事業、就労体験先を開拓することが不可欠です。まいさぼ木曾では、企業開拓を進める中で、地元の木曾町商工会とのつながりが生まれ、役員会にてまいさぼ事業の説明をする機会を得ました。野田センター長は「今後、地域の企業には、就労体験の場の提供のほか、宿泊や食糧支援など緊急支援の協力を得られないか一緒に考えていきたい」と話します。

最後に、「この1年間を振り返ると、生活困窮者に対して何かしたいという住民の声が聞こえてきた。何か支援をしたいという一人ひとりの気持ちをうまくつなげていきたい」と野田センター長は話していました。

その昔、となりの家からお醤油を借りることもありました。
今こそ、助け合い。



有限会社 サンライズ

〒381-0034 長野市大字高田1390-1 E-mail:post@sunrise-gogo.co.jp TEL.(026)224-2445 FAX.(026)224-1123
■企画 ■デザイン ■web ■印刷 ■パッケージ製作 ■折り加工製本 http://www.sunrise-gogo.co.jp

旅とアートが
テーマの新刊書店



ch.
books

〒380-0836 長野県長野市南県町1069
11:00~20:00(平日朝7:30~朝カフェ)
木曜定休
TEL / FAX 026-217-5687
http://chan-nel.jp/

平成28年度 社会福祉施設 総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます
ぶくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の
事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

基本補償(賠償・見舞)

補償金額	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
被害者対応費用(1名につき)	死亡10万円 後遺障害03-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)	死亡10万円 後遺障害03-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)
お見舞い等		
傷害見舞費用		

◆28年度新設 使用者賠償責任補償(プラン3-①オプション)
社会福祉法人役員の賠償責任補償(プラン4)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課
TEL: 03(3593)6824
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

〈SJKNK15-17043 2016.02.18作成〉



長野市安茂里地区の14の介護保険事業所が連携を図る「安茂里地区介護保険事業所ネットワーク」。頭文字から通称「あかね会」と命名され、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることを支援する目的で、平成20年に行われた交流会を機に結成されました。現在の活動は、2カ月に一度、地域のドラッグストアやスーパーの一角を借りて住民の介護相談を受け付ける「介護何でも相談会」を実施したり、年に2回、介護にまつわる研修会を主催しています。このほか、安茂里地区で年1回開催されている祭り「アモーレフェスタ」など各種イベントでもブース出展をし、介護相談のほか介護体験やステージ発表なども実施。年会費を集めて地区の介護保険事業所マップも作

「わたしたちのめざす地域貢献」
「地域のための事業所連携を」

福祉・介護サービスの提供だけでなく、地域とつながり、地域福祉を支えることを目指している事業所・法人の取り組みを紹介します。

安茂里地区介護保険事業所ネットワーク(あかね会)

vol. 01

成しています。こうした企画のために、14の事業所長は月に1回、定期的に集まる会議を実施。普段は各々の事業所で働いていますが「住民のために貢献する」というひとつの大きな目的に向かう仲間なので、会議は冗談が飛び交い、明るく風通しがよい雰囲気で行われます。また、情報交換だけでなく飲み会も含めた楽しい交流も、会議やイベントへの積極的な参加の相乗効果になっているのだとか。こうした流れにより、昨年から職員向けの全体研修も行われるようになりました。今年度は看護師など個別の役割に向けた研修も実施予定。これからの高齢化社会を担う地域包括ケアシステム構築の先駆けともいえる、利害関係を超えた事業所間の取り組みです。



安茂里地区介護保険事業所ネットワーク(あかね会)
〒380-0956 長野市安茂里小路1455-1 太田アパートB棟 焼肉倶楽部 居宅介護支援事業所内
TEL 026-217-2755 (担当: 原 重知)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成28年度 全国200万人 加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp

ぶくしの保険 検索

補償金額(保険金額)

保険金の種類	プラン	Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,200万円	1,800万円
	後遺障害保険金(限度額)	1,200万円	1,800万円
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術保険金	入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円	100,000円 50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
賠償の補償	葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)	
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		300円	450円
	天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	430円	650円

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険) (傷害保険) (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課
TEL: 03(3593)6824
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〈SJKNK15-17042 (2016.02.18作成)〉

心つころ 長野県社会福祉協議会 公式キャラクター

広告主 募集

TEL 026-228-4244

お問い合わせは長野県社会福祉協議会 総務部まで
soumu@nsyakyu.or.jp 〒380-0928 長野市若里 7-1-7

今月の逸品

喬木村さくらの園では、地元の原料を使った菓子や『ごまかりんとう』などを作り生麺製造販売の辰野町「工房ぬくもり」さんの麺の委託販売もしています。そして共同開発した“うどんかりんとう『ポキポキッ』シリーズ”もあわせて販売しています。他方「工房ぬくもり」さんでも当園の菓子を販売してくれ、相互に協力し合っているおかげで互に行けない地域でも販売可能となっています。また、各商品ラベルは手作りなので、結婚式などオリジナルへも変更でき、喜ばれています。

ポキポキッ (黒糖・塩のり・チーズ・カレー・七味)、
乙女のきもち / 各100円
ガチンコ、いちごサブレ、ブルーベリーサブレ、
ルシアンクッキー、Zoo / 各200円

喬木村社会福祉協議会 喬木村共同作業所さくらの園
〒395-1101 下伊那郡喬木村938-2
TEL/FAX 0265-33-4555
Email takagi-sakura@almondo.ocn.ne.jp

離れた施設同士が共同開発した菓子販売と、 相互商品の委託販売



Art Meeting



作者紹介

『こめこめBag』 ながのアートミーティング企画制作

「ながのアートミーティング」はいくつかの福祉・教育現場などで出前アートワークショップを提供しています。そこで障がい重いといわれる人が、絵の具や墨をグリグリ、グルグル、ポタポタと、とても楽しそうに紙に塗り込んでいます。これを活かさないものかと再利用の米袋を使った『こめこめBag』が生まれました。いわゆる生産活動や、仕事にはなかなか乗れない人でも、このグリグリ・グルグル・ポタポタが役立つモノづくりに参加できるのです。売り上げの一部は表現してくれた人に還元され、チェルノブイリ連帯基金へも寄付されます。

情報掲示板

県社協からのお知らせ

●第65回長野県社会福祉大会(予告)

日程/平成28年9月14日(水)

会場/長野市芸術館(長野市)

●音訳ボランティアセミナー

日程/平成28年6月7日(火)

会場/たつのパークホテル(辰野町)

新着助成金情報

●ドナルド・マクドナルド・ハウス財団 助成事業

応募締切/平成28年5月31日(火) 消印有効

問合せ先/ドナルド・マクドナルド・ハウス財団2016

年度助成金担当/〒163-1339 東京都新宿区西新宿
6-5-1 新宿アイランドタワー 39階

URL <http://www.dmhcj.or.jp>

(その他の情報は長野県社協HPをご覧ください。)

●リニューアルした福祉だより信州はいかがでしたか? ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。

長野県社会福祉協議会 総務企画部 総務グループ

TEL 026-228-4244 FAX 026-228-0130

E-mail soumu@nsyakyu.or.jp

昭和27年1月11日第三種郵便物認可 第731号

2016年(平成28年)4月25日発行(毎月25日発行)

●発行所/社会福祉法人長野県社会福祉協議会

〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL 026-228-4244 FAX 026-228-0130

E-mail info@nsyakyu.or.jp URL <http://www.nsyakyu.or.jp/>

●印刷所/有限会社サンライズ ●制作/合同会社ch.

●購読料/1部30円(本会会費に含む)